

2009年12月21日

<プレスリリース>

「内外の化繊工業の動向（2009年第3四半期）」について

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会はこのたび、「内外の化繊工業の動向（2009年第3四半期）」をまとめました。以下はその概要です。

担当： 業務調査グループ （Tel：03-3241-2313）

## 概 要 (2009年第3四半期)

2009年7-9月のわが国の景気は、失業率が高水準にあるなど雇用情勢は一段と厳しさを増しているが、在庫調整の一巡や経済対策効果に加え、対外経済環境の改善により生産、輸出で持ち直しの動きがみられた。

化繊景況は、全体経済の縮小による個人消費、企業の設備投資などの低迷により、一部で回復の兆しは見られるものの、衣料、家庭・インテリア、産業資材いずれの用途においても需要の停滞感は拭い切れていない。化繊生産は前期に比べ持ち直しているが、前年比では大きく減少しており回復の度合いはまだ低い。

### 国内

1) 国内景気は、企業収益の減少、設備投資は低調に加え、失業率が高水準で推移するなど厳しい状況にあるが、生産・輸出・個人消費などはここに来て回復の兆しがみられ、持ち直し気運にある。繊維景況は、衣料用は、末端需要の低迷に加え、消費者の節約志向から7-9月の百貨店での衣料品売上高が前年同期比12.8%減、チェーンストアが11.7%減と2桁の減少が続いている。インテリア用は、カーシートはエコカー減税効果によるハイブリット車を中心に生産台数は持ち直しているが、車種により明暗が出ている。カーテン、カーペット関連では、マンションの発売戸数(首都圏 前年比2.3%増、近畿圏 24.5%減)は首都圏で前年比プラスとなったがその水準は低く、また新設住宅着工件数は29.6%減と引き続き減少、また事務所・店舗関連の非居住用建築物の着工床面積も低調と、総じて低調であった。資材用は、自動車の生産台数の持ち直しによりシートベルト・エアバッグは回復の兆しは見られるが、その水準は低い。タイヤコードは、トラック・バス、輸出乗用車向けが厳しかった。建築関連は、公共投資、民間投資ともに総じて低調に終わった。

2) 生産指数は、繊維工業、紡績は前年比、前期比ともに減少しているが、化繊は前年比減少したものの、前期比では2期続けて増加した。したがって繊維工業は前年比18.4%減、前期比微減。うち化繊は前年比24.9%減、前期比4.4%増。紡績は前年比32.3%減、前期比3.0%減と、ここに来て減少の流れに歯止めが掛かったと見られる。在庫指数(期末)は、各段階で在庫削減が進み、繊維工業は前期比3.1%減、化繊9.8%減、紡績0.3%減と減少している。(生産、在庫とも指数ベースの比較)

3) 繊維品輸出は、ドルベースで19.0億ドル・前年比16.3%減、円ベースで1,781億円・27.2%減と前期に続き大きく減少した。形態別(ドルベース)では、繊維原料(2.8億ドル、

前年比 13.9%減)、糸類(2.1 億ドル、24.5%減)、織物(6.5 億ドル、20.9%減)、二次製品(7.7 億ドル、10.1%減)といずれも減少した。仕向地別(円ベース)では、最大の輸出国である中国が欧米向け再輸出の不振により 68.8 億円・21.5%減、香港(151 億円・28.7%減)、アセアン(293 億円・18.7%減)をはじめ、欧州(42.9%減)、米国(37.3%減)、韓国(31.7%減)など主要地域・国向けは引き続き大きく減少した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで 90.7 億ドル・前年比 1.9%減、円ベースでは 8,479 億円・14.7%減と減少した。形態別(ドルベース)では、繊維原料は 0.9 億ドル・47.9%減、糸類は 2.0 億ドル・33.8%減、織物は 2.4 億ドル・24.1%減、二次製品は 85.3 億ドル・1.1%増と二次製品を除き大幅に減少した。仕出地別(円ベース)では、ベトナムは 307 億円・1.2%増と増加したが、最大の仕出国である中国の 6,660 億円・11.2%減をはじめ、イタリア(32.8%減)、韓国(16.9%減)、米国(37.0%減)など軒並み減少した。

#### 繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	08.7-9	09.4-6	09.7-9	前年比(%)	前期比(%)
繊維品	1000ドル	2,273,598	1,848,361	1,902,662	-16.3	2.9
輸出	百万円	244,608	179,718	178,132	-27.2	-0.9
繊維品	1000ドル	9,245,760	6,908,374	9,074,287	-1.9	31.4
輸入	百万円	994,511	673,316	847,875	-14.7	25.9
繊維原料	1000ドル	180,924	93,134	94,259	-47.9	1.2
	百万円	19,457	9,069	8,823	-54.7	-2.7
その他	1000ドル	9,064,836	6,815,240	7,038,787	-22.4	3.3
	百万円	975,054	664,247	839,052	-13.9	26.3
二次製品	1000ドル	8,437,327	6,384,844	8,533,844	1.1	33.7
	百万円	907,572	622,348	797,267	-12.2	28.1
輸出レート	円/ドル	107.6	97.2	93.6	-13.0	-3.7
輸入レート	円/ドル	107.6	97.5	93.4	-13.1	-4.1

(出所)財務省

5) 化繊生産は 21.2 万トン・前年比 20.5%減、前期比 2.7%増。第 1 四半期を底に持ち直しつつあるがその水準は低い。セルロース繊維は 3.9 万トン・前年比 9.1%減、前期比 0.8%減。合繊はアクリルが 9 期振りに前年実績を上回ったが、ナイロン、ポリエステルFの減産により 17.3 万トン・前年比 22.7%減、前期比 3.2%増となった。期末在庫は、10.3 万トン、セルロース繊維は増加、合繊は減少している。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は 13.5 万トン・前年比 20.6%減。レーヨン S は引き続き米国向けを中心に好調に推移し 38.0%増(4,097 トン)となったが、ナイロン F 28.2%減、ポリエステル F 35.4%減、ポリエステル S 17.1%減、アクリル S 18.6%減と減少した。合繊織物(面積ベース)は、長繊維織物が 22.7%減、短繊維織物は 29.5%

減と2桁減が続いている。化繊輸入（繊維原料～二次製品）は31.9万トﾝ・2.8%減。短繊維は1.3万トﾝ・15.3%減、糸類は3.5万トﾝ・26.4%減、織物は1.7万トﾝ・17.6%減、二次製品は25.2万トﾝ・3.9%増、うち衣類は10.8万トﾝ・7.9%増。

化学繊維の主要指標

項目	単位	08.7-9	09.4-6	09.7-9	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千トﾝ	267	206	212	-20.5	2.7
セルロース	〃	43	38	39	-9.1	0.8
合 織	〃	224	168	173	-22.7	3.2
化繊在庫	〃	113	115	103	-8.7	-10.3
セルロース	〃	16	18	18	13.9	1.5
合 織	〃	97	97	85	-12.5	-12.5
化繊輸出	千トﾝ	170	137	135	-20.6	-1.6
	100万ドル	1,379	1,154	1,158	-16.0	0.3
	億円	1,483	1,122	1,084	-26.9	-3.4
化繊輸入	千トﾝ	328	217	319	-2.8	47.2
	100万ドル	3,831	2,301	3,980	3.9	73.0
	億円	4,120	2,243	3,715	-9.8	65.6

（出所）経済産業省、財務省

（注）在庫は生産者在庫で各期末

6) 主要合織品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は4万2,051トﾝ・前年比29.0%減、20期連続で前年対比減少。織物生産は8,947万㎡・34.7%減と5期連続で前年対比減少。消費者の生活防衛意識の高まりの中、消費不振、低価格志向により、主力の婦人服は、百貨店での売上が9月迄で27ヵ月連続前年を下回るなど、裏地の不振が目立った。ダウンウェアは健闘。スポーツでは、遊泳水着、トレーニングウェアともに店頭不振により苦戦、高密度織物輸出も円高により採算悪化。ここに来て「スポーツアンダー」が注目されている。自動車関連は、生産台数の回復により勢いは出てきたが本格的な回復には到っていない。タイヤコード向けはリプレイス需要に支えられている。カーシート・シートベルト・自動車用ゴム資材向けは、回復基調にあるがそのペースは分野によって斑模様。フィラメント輸出は6,105トﾝ・前年比35.4%減、タイヤコード用などの産業資材向け強力糸の不振が続いている。フィラメント輸入は1万7,672トﾝ・前年比30.0%減と国内需要の不振を背景に低水準が続く、最大の仕出国である台湾が8,610トﾝで全体の48.7%を占めている。

ポリエステルS：生産は3万9,177トﾝ・前年比22%減。不織布関係の一部用途を除いて引き続き低迷。紡績用では、綿混はワーキングユニフォーム向けの荷動きが鈍い。レーヨン混はレーヨンのコストアップもあり衣料用シーズンは低調のまま終了。ウール混は学販売向けが堅調。純糸は帆布・インテリアが低調。中東向け間輸は円高により採算悪化。製綿用は、寝具で備蓄生産による動きが見られたが数量は前年に比べ大きく減少。またコスト面

から韓国のバインダー、中国の中空コンジュなどの輸入原綿増加が目立つ。不織布用は、衛材が前年並みまで回復。生活資材でもパップ剤やワイピング関係、除菌ウェットティッシュ向けは順調。車両資材は、ハイブリッド車向け需要は回復しているが、全体では他の用途に比べて回復が遅れている。産業資材は、フィルター等の取替え需要により堅調に推移。湿式不織布は車両用フィルターや水処理関係が円高により回復ペースが鈍化している。ステーブル輸出は、低調に推移し同 17%減の 9,317 トン。また輸入は、韓国、中国の増加により同 13%増の 6,669 トンとなった。

ナイロン F：生産は 18,627 トン・前年比 35.9%減、10 期連続前年を下回った。織物生産は 2,534 万㎡・同 19.1%の減と、6 期連続前年を下回った。衣料用は、パンスト・タイツ向けは、レギンス、トレンカは堅調であるが、主力のレギュラーパンストは不振。アウター向けは、ハイテンションニットの中国内販向け輸出が旧正月以降低迷している。スポーツ関係では、アウトドア用の高密度織物輸出が円高・景気低迷にもかかわらず健闘。体形補正用のボトム需要は一巡。非衣料用では、タイヤコード向けは、ラジアルタイヤ向けキャッププライ用は順調に回復しているが、バイアスタイヤ向けは引き続き低調。エアバッグ向けは最悪期を脱したものの、生産基地が海外に移転している。車両用マット向けは、高級乗用車の販売不振、またタイルカーペット向けも大型物件が乏しくいずれも低調。フィラメント輸出は産業用強力系の不振により 4,446 トン・同 28.2%減、輸入はカーペット、タイヤコード用の減少により 4,671 トン・前年比 36.4%減であった。

アクリル S：生産は 3 万 4,744 トン・前年比 5.3%増と 9 期振りに前年を上回った。紡績系生産は 2,591 トン・同 28.9%減と 7 期連続前年を下回った。衣料用は、来シーズンに向けて期待が大きいマイクロファバー使いの保温肌着や婦人軽量肌着向け丸編用投入は、1 - 6 月の投入増による反動により減少。セーターも需要の一巡により低調。靴下は中国製ポリエステル綿混品との競合により苦戦と厳しかった。建寝装用は、ライフスタイルの変化などで製品市場が縮小する中、ポリエステル、ポリプロピレンなどの競合間競合により苦戦した。ステーブル輸出は最大仕向地の中国は 1 万 6,649 トン・同 25.9%増。07 年、08 年と 2 年続いて不振を極めた扁平わたの引き合いが復活している。インドネシアは 3,136 トン・同 29.7%減。イランは 1,633 トン・78.4%減。アフリカ諸国向けは 3,944 トン・1.1%減。紡績系輸入は 2,027 トン・同 16.3%減、インドネシア (1,243 トン)、中国 (572 トン) の両国で 90%を占めている。

## 海外

7) 韓国の繊維業況は、2008 年後半のリーマンショック直後の不振から徐々に回復傾向に転じている。繊維品輸出は減少幅が縮小、繊維製品輸入の大幅減による国内生産の回復などのプラス面もみられた。繊維産業の生産指数(2005=100)をみると、紡織品は101.9と前期比7.4ポイント、衣類は117.4と18.9ポイント改善している。合繊生産は前年同期比1.9%増の34.0万ト、7期ぶりに前年実績を上回った。主要合繊4品種の生産をみると、ナイロンFは3.2%増の3.3万ト、ポリエステルFは3.8%減の16.6万ト、ポリエステルSは6.9%増の12.8万ト、アクリルSは35.6%増の1.3万トとなった。期末在庫は5.8万ト、前年同期末比32.8%の大幅減と在庫調整が進んでいる。繊維品輸出は前年同期比12.5%減の30.6億ドルと4期連続の前年実績割れ。主力の紡織品は、中国、米国、中東向けなどの大幅減が響き10.8%減の23.8億ドル、繊維品輸入は17.0%減の21.6億ドルとウォン安もあり、大幅な減少が続いている。

8) 台湾の繊維業況は、2009 年前半の大きな落ち込みからは改善がみられるが、依然として縮小傾向が続いている。第3四半期の化合繊生産は好調なファイバー輸出から2桁増となったが、紡織、衣類生産については減少が続いている。化繊生産は前年比14.9%増の52.6万ト、7期ぶりの前年実績増となった。主要合繊4品種をみると、ナイロンFは1.3%減の7.0万ト。ポリエステルは、Fが8.3%増の25.6万ト、Sは28.1%増の13.3万トとともに増加した。アクリルS生産は66.2%増の3.3万トとなった。繊維品輸出は13.8%減の23.8億ドルと6期連続の前年実績割れとなった。段階別にみると、繊維原料は11.8%増の2.7億ドルと増加したものの、糸類は3.3%減の4.8億ドル、主力の織物類は18.3%減の13.4億ドル、衣類は28.8%減の1.9億ドルとなった。繊維品輸入は19.2%減の5.6億ドルとなった。

9) 中国の繊維業況は、輸出は不振が続いたが、好調な内需に支えられ、主要繊維生産国の中でも唯一の突出した拡大基調となった。繊維生産をみると、化合繊は前年同期比21.2%増の715.0万ト、紡績糸は11.4%増の624.0万ト、織物は2.3%増の150.1億m、衣類は8.7%増の58.0億点と織物をいずれも2桁の大幅増となった。産業用繊維の需要も急拡大しており、2009年1-9月の不織布生産は26.4%増の104.5万ト。化繊生産のうち、レーヨンは42.3%増の47.8万ト、合繊は17.9%増の643.6万トとなった。合繊を品種別にみると、ポリエステルは17.5%増の568.8万ト、ナイロンは34.6%増の35.8万ト、アクリルは34.9%増の18.1万トといずれも大幅な増産となった。第3四半期の平均稼働率は、ポリエステル長繊維は82%、同短繊維78%、ナイロン82%、アクリル90%などいずれも上昇している。また、パラ系アラミド繊維、炭素繊維など高機能繊維への参入する企業も相次いだ。繊維品輸出は前年同期比

12.9%減の464.7億ドルと依然として2桁の減少が続いている。繊維原料は27.0%減の39.5億ドル、紡織品は13.8%減の153.7億ドル、衣類等二次製品は12.3%減の307.1億ドルとなった。米国、日本向けを除き、軒並み減少となった。繊維品輸入は13.4%減の60.2億ドル。繊維原料は22.9%減の14.9億ドル、紡織品は7.9%減の40.1億ドル、二次製品は22.1%減の5.2億ドルとなった。合繊原料輸入は、PTAは12.7%増の154.0万トン、EGは14.2%増の150.1万トン、CPLは42.2%増の17.2万トンとなった。

10) 米国の化繊景況は、長繊維は政府による景気刺激策により、自動車用や住宅用カーペットを中心に持ち直している一方で、短繊維は厳しい状況が続いている。合繊メーカーは原料価格の上昇により10月以降更なる値上げを表明している。

合繊生産は前年同期比12.1%減の64.1万トン、減少幅は徐々に縮小している。出荷は輸出向けの不振が目立ち15.3%減の63.3万トン。期末在庫は前年比20.3%減の13.0万トン。ナイロンFはカーペット用以外の出荷は低調であるが、0.9%増の15.7万トン。ナイロンSはカーペット需要低迷により21.9%減の2.3万トン。ポリエステルFは自動車向けで回復は見られ6.2%減の9.9万トン。ポリエステルSは紡績、不織布、カーペット、詰め綿などいずれも不振で4.6%減の13.4万トン。オレフィンFは15.6%減の18.5万トン、Sは31.5%減の4.3万トン。紡織工業は、在庫は減少傾向にあるものの厳しい状況にある。

衣類輸入は12.7%減の474.0億ドル。中国・2.0%増、バングラデシュ・2.3%増に対して、メキシコ(17.6%減)、CBI諸国(19.2%減)等、近隣国は減少している。また米国政府は9月11日、中国製タイヤに対するセーフガード措置(1年目55%、2年目45%、3年目35%の追加関税賦課)の発動を発表。中国を牽制する動きが見られる。

11) 欧州(西欧+中東欧+トルコ)の化繊業況は、第3四半期の業況は、域内市場の冷え込みが続き、多くの品種で生産が前年同期比2桁減を続ける等、不調が続いている。10月以降も一部で輸出増加や自動車用の改善もみられるものの、依然厳しい状況が続いている。ナイロンFの紡織用はスポーツウェア関連、差別化系の輸出堅調により堅調に推移、産資・カーペット用は厳しい状況が続いている。ポリエステルFは、紡織用不振、産資用は自動車産業の改善により持ち直しが見られる。CIRFS(欧州化学繊維協会)は、中国、台湾、韓国産の産資用ポリエステルFに対しアンチダンピングを申請、その成り行きが注目される。ポリエステルSは、衛材、ワイパー、自動車用など不織布向けは堅調だが、紡織用は不振。アクリルSは、域外輸出やトルコの内需回復により堅調に推移した。セルロースSは、普通レーヨンはじめ難燃など特殊品が好調に推移した。

J C F A

## 合繊4品種需要実績

### ・ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:ト、%)

		2009年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	19,379	112.1	70.7
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	40,113	121.7	75.6
	計	59,492 (17,672)	118.4 (120.3)	73.9 (70.0)
輸出 (原系、加工系)		4,689	192.7	82.6
需要計		64,181	121.8	74.5
在庫		21,021	85.8	85.4

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・ポリエステルステープル需要実績

(単位:ト、%)

		2009年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,229	116.5	71.0
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	31,178	110.2	82.3
	計	36,407 (6,669)	114.3 (143.9)	83.2 (112.9)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		8,133	113.1	85.3
需要計		44,540	114.1	83.6
在庫		25,889	97.5	101.1

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・ナイロンフィラメント需要実績

(単位:ト、%)

		2009年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	8,693	110.6	80.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	13,612	118.5	69.4
	計	22,305 (4,671)	115.3 (99.1)	73.3 (63.6)
輸出 (原系、加工系)		3,065	161.2	68.2
需要計		25,370	119.4	72.6
在庫		12,048	84.4	84.3

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・アクリルステープル需要実績

(単位:ト、%)

		2009年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	3,763	52.5	69.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,653	87.6	70.6
	計	6,416 (225)	62.9 (143.3)	70.0 (48.4)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		28,403	116.8	100.4
需要計		34,819	100.9	93.9
在庫		10,568	105.2	77.6

(注)国内需要の( )内数値は輸入量